

タイトル:平成 24(2012)年度 研究セミナー

日程:平成 24 年 12 月 14 日(金)～16 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「サファヴィー朝の儀典長官とその組織」

森岩 紀賢(中央大学政策文化総合研究所・人文科学研究所準研究員)

今回、近藤信彰先生からのお誘いで、中東☆イスラーム研究セミナーに参加させていただきました。研究所にお伺いしたときに張り紙を見たりなどして、以前よりセミナーの存在は知っておりましたが、参加を見送っておりました。正直なところ、様々な分野の専門家の先生方を相手に 1 時間の発表と 1 時間の質疑応答というしっかりした内容に耐えうるかどうか不安があり、自ら応募する勇気がなかったというのが、その理由でした。

現在の私は、大学院博士課程の年限を満了し、目前に差し迫った期限がなく、これから、審査制を採用している学術雑誌にこつこつ論文を投稿して積み上げていこうという状態でしたので、研究の全体をまとめる博士論文の構想はまだおぼろげな感じでありました。セミナー参加を希望することによって、応募書類を作成したり、当日の発表内容を精査したりする中で、今まで調べてきたことを全体的にまとめる良い機会となりました。

自分の発表は 1 つのムスリム王朝の 1 官職というものを取り扱うもので、あまり広がりがないものとなってしまいましたが、先生方や受講生の方々にじっくり内容をお聞きいただき、様々なご質問やご助言を頂きました。1 人で考えこんでいると、自身の興味にしか気が回っていないことが多いため、細かい技術的なことはもちろん、視点や関心の持ち方など大変勉強になりました。ご指摘いただきました点は、調べなおしたり、新たな論点を加えたり、今後の研究に生かしたいと思えます。

また、他の受講者のご発表を聞かせていただいたことは、研究上の良い刺激を受けることとなりました。日頃は歴史分野(とくに前近代)の発表を聞くことが多いのですが、人類学や経済学、そして歴史でも近代の発表を聞くことができ、研究の視点や手法など非常に参考になりました。そして、分野を超えた場での発表の仕方や研究報告の方法など技術的な面においても勉強させていただきました。

セミナーの 3 日間はとても充実した内容でありました。このような素晴らしい機会を与えてくださいました東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の先生方やスタッフの方々に、本当に感謝申し上げます。また、お声かけいただきました近藤先生にお礼申し上げます。

最後に、もし、この研究セミナーに応募されるかどうか迷われている方がいらっしゃいましたら、ぜひ応募されることをお勧めいたします。研究をまとめるという意味においても良い機会となりますし、発表においては先生方から鋭いご質問をいただきますが、温かいご助言もいただくことができますので、きっと研究上の疑問や行きづまりなどを解決する糸口や結果が得られることになるかと思えます。